

今井尚哉元首相補佐官の意外な証言 「最大の仕事は、反大蔵省軍団との対決でした」

阿比留瑠比の極言御免

2025/2/27 01:00  ポスト

反応



記事を保存



阿比留 瑠比 政治政策

阿比留瑠比の極言御免



今井尚哉・キャノングローバル戦略研究所研究主幹
(酒巻俊介撮影)

月刊「中央公論」3月号に掲載されている今井尚哉（たかや）・キャノングローバル戦略研究所研究主幹と牧原出（いづる）・東大先端科学技術研究センター教授の対談が興味深かった。安倍晋三内閣で首相秘書官と首相補佐官を兼務し、安倍元首相の「ハラワタ」とまで言われた今井氏が、消費増税派だったことは承知していたが、今井氏は対談ですばりこう振り返っている。

「正直に言うと私の最大の仕事は、反大蔵省（現財務省）軍団との対決でした。（中略）具体的には内閣官房参与の本田悦朗さんや、菅（義偉）内閣で内閣官房参与になる高橋洋一さんといった面々に、安倍さんが引きずられないようにする。それが私の役目でした」

今井氏がそんな役割を自任していたとは、とんと知らなかった。今井氏は安倍氏が「消費増税を好ましくは思っていなかったはず」と述べつつ、令和元年に税率を10%にしたことについてこう証言する。

「安倍さんに迷いはなかった。菅義偉官房長官には『増税して選挙に勝てるか』と何度も怒られました。安倍さんが本田さんや高橋さん、（自民）党内でいえば（積極財政派の参院議員の）西田昌司さんや（元政調会長の）高市早苗さんと同様の考えであれば、私ではなく菅さんに乗ったはずですよ」

牧原氏が「でもいま名前の拳がった面々は、安倍さんと仲がいいですよ」と問うと、今井氏は答えた。

「だから苦労したわけですよ（笑）。安倍さんは世話になっている人は裏切れない。私の行動は彼らをにこやかに遠ざける」

なかなか衝撃的な赤裸々な回想である。今井氏は財務省に対する「経済官庁同士の仲間意識」も表明しているが、筆者が安倍氏から直接聞いてきた財務省観は全く違ったので、いささか当惑を覚える。

安倍氏はむしろ、財務省の意向を受けいれがちな永田町に対し、いつも警鐘を鳴らしていた。例えばこんな言葉を聞いた。

「永田町や霞が関の空気と、その『その外の世界』の実感とは違う。より大事であり、選挙の結果を左右するのは『外』のほうだ」

「永田町は財務省に引きずられているが、財務省はずっと間違えてきた。彼らのストーリーに従う必要はない」

現在、石破茂政権は国民民主党が求める所得税の非課税枠である「103万円の壁」引き上げを巡って、やはり財務省の意向に引きずられているように映る。

安倍政権が平成26年4月、自民、公明、民主の3党合意に基づき消費税率を5%から8%に上げたときの財務省の説明にも、こうあきれていた。

「財務省はあのかとき『増税の影響は一時的ですぐに収まります』と言っていた。財務省は当初、27年7～9月期のGDP（国内総生産）は4%の成長になるとも説明していた。まさかマイナス成長になるとは思わなかった」

安倍氏は、消費税率を8%から10%に上げるのを2回延期した際も、財務省が「延期すれば日本は国際信用を失い、国債は暴落する」「金利は、手がつけられないくらい上昇する」とさまざまなデータを示して延期反対論を説いたが、その予測はことごとく外れたと指摘していた。

今井氏の証言は意外ですらあり感慨深いですが、防衛費増のため建設国債活用を説いていた安倍氏だったら、国会の現状をどうみていたかが気になる。（論説委員兼政治部編集委員）